

(4) 小学校教員の週あたり平均担当授業時数

教員組織の実情に即応して、担当時数の適正化を図り、更に指導活動の充実を図る。

第3項 施設・設備

1. 現状と課題

(1) 施設

本県における小学校校舎の構造別保有率をみると、図2-2-23のとおり、木造が漸減し、鉄筋が漸増している。鉄骨は、ほぼ一定の保有率で推移する。

全国平均も、図2-2-23のとおり、ほぼ本県と同様の状態で推移する。

全国平均と比較すると、本県の木造保有率は、毎年、少しずつ低くなるものの全国平均よりかなり高く、昭和51年度においても、52.2%となり、木造面積が半数以上を占める。

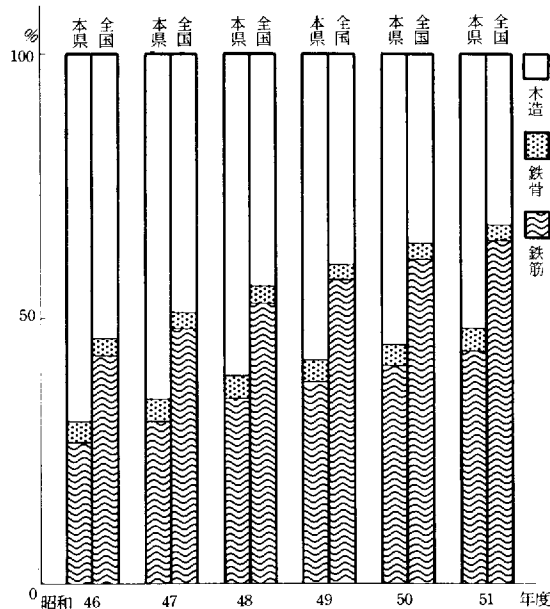
全国平均の木造保有率は、昭和47年度に49.2%と木造面積が半数以下となり、耐火構造面積（鉄筋及び鉄骨面積を加えたもの）が半数以上を占める。

校舎の地域別木造保有率をみると、図2-2-24のとおり、県中地域を除き、各地域ともに50%以上である。特に、分校の多い会津、南会津地域は、他の地域より高い。

校舎の保有総面積に対する危険面積（耐力度4,500点以下）の比率は、図2-2-25のとおり、昭和48年度における23.4%を最高に、それ以降低くなり、危険建物が計画的に解消されていることを示している。

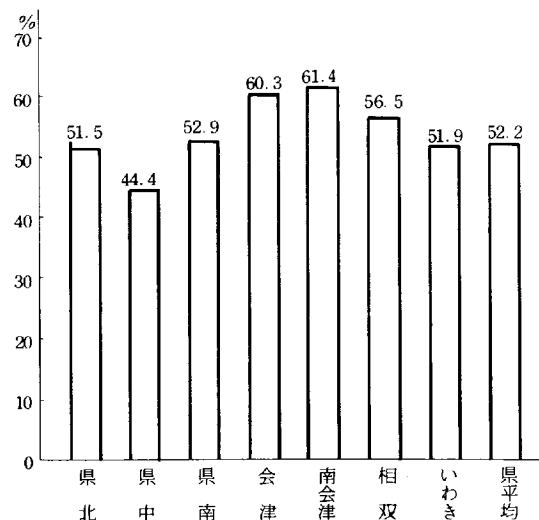
木造面積に対する危険面積の比率をみると、表2-2-9のとおり、昭和47年度に21.1%と最も低く、昭和48年度には、38.3%と前年度を大きく上回り、それ以降低くなる。

図2-2-23 小学校校舎の構造別保有率



注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭46～昭51)による。  
2. 構造別保有率=(構造別保有面積)÷(保有総面積)×100

図2-2-24 校舎の地域別木造保有率



注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭51)による。  
2. 保有率=(木造保有面積)÷(保有総面積)×100